



11/5 3年 学力Cテスト対策授業

11/12～13 定期テスト対策1000分特講



1000分特講では普段はあまり行われない授業もあります。

問題を解いて解答します。

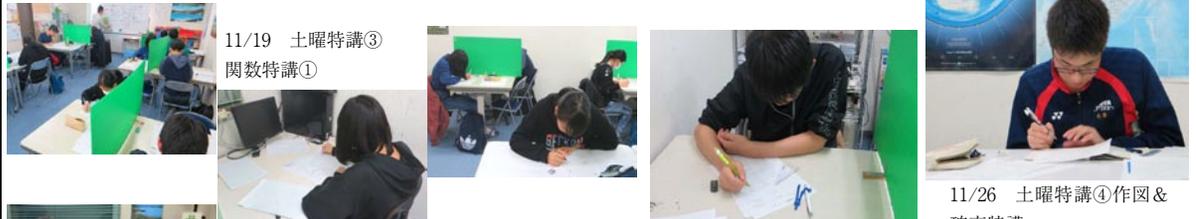


終わった人から帰れる3年生の土曜特講、第1回計算特講



1000分特講と同じく塾で勉強していた湖陵1年の牛木さん。

早川さん、磯部さん、住川さん、差入れありがとうございました。



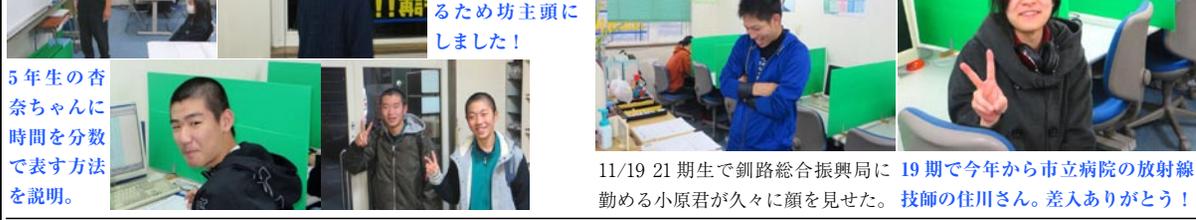
11/19 土曜特講③
関数特講①

11/26 土曜特講④作図&
確率特講



道コン、学力テストの結果をもとに面談を行なって第1志望校の確認をしました。

高校生もテストに備えて。終わってもやっ下さいよ！



5年生の杏奈ちゃんに時間を分数で表す方法を説明。

中3男子、気合を入れて勉強するため坊主頭になりました！

11/19 21期生で釧路総合振興局に勤める小原君が久々に顔を見せた。19期で今年から市立病院の放射線技師の住川さん。差入れありがとうございます！

★高校入試まで96日、センター試験まで44日
今日から12月、中3生は学力A・B・Cが終わり三者面談が始まります。
塾内でも学力テスト、道コンの結果をもとに面談を行い第一志望校の確認をしました。入試まで90日、これからの受験勉強の本番です。
一昨年もABCの平均点が183点で湖陵、165点で江南、136点で北陽に合格しています。まだまだ勉強する時間は十分あります。諦めずに本気で取り組むことで30〜40点は上がります。
ここでごがんばることが出来れば、社会人になっても自信をもってやっていくことが出来ます。
季節がら体調管理に注意してがんばりましょう。
部活動、週1日は休みに

大阪府教育庁は18日、全府立高校・支援学校182校に対し、来年4月から、部活動を行わない日を週1日以上設けるよう義務付けると発表した。全教員が午後7時までに退勤する日も週1日以上設けさせる。教員の時間外労働を削減するのが狙い。
教育庁によると、部活動を休むことを義務付けるのは全国的に珍しいという。12月に各校長あてに通知するほか、市町村の教育委員会にも通知を送り、同様の対策を検討してもらう。
府立学校で2011年度、勤務時間外に月80時間を超えて学校にいた教員について調べたところ、時間外業務の55%を部活動が占めており、授業準備が12%で続いた。
各校は13年3月以降、部活動に外部の指導者を招くといった取り組みを進めているが、時間外労働は増加傾向にあるという。
※特に高校生は部活に引きずられないことですよ！

高専ノウハウ「輸出」：教材開発や人材サポート
政府は、5年間の実践的なカリキュラムで技術系人材を養成する高等専門学校（高専）について、アジア、アフリカなどの新興国に運営のノウハウなどを「輸出」し、現地での開設を促す、本格的な海外展開に乗り出す。
11月にモンゴルで高専運営の支援窓口となる拠点初めて設置した。12月にタイ、今年度内にはベトナムにも開設する。
拠点は、国立の高専を運営している独立行政法人・国立高等専門学校機構が設置する。同機構の日本人教員らが、相手国政府や高専のカリキュラムを導入するモデル校との調整役を務める。現地の学生や教員の能力、求められる人材などを把握し、教材の開発や日本からの教員派遣などでサポートする。
YOMIURI ONLINE 28

北海道医療大学合格おめでとう！
11月28日江南高校3年生の田村舞雪さんが北海道医療大学の薬学部へ合格しました。これから6年間大変だと思いますが、がんばってください。
昨年は栗野君が歯学部へ入学、今年から住川さんが私立病院の放射線技師として勤務しています。中学生も高校生も、早く将来の目標を決めてそれに向かうことです。
23日から冬期講座が始まります！
中1、2年は3時間、中3は4時間プラス何時間でも（最長9時間）。真剣に取り組みしましょう！

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木
								★冬期講座準備休み					休	★中3塾内模試						休	■中3土曜特講⑥(図形の軽量)					休	■中3土曜特講⑤(関数特講II)			
								★冬期講座スタート★																						

在籍する生徒の所属校
小学校 愛国・鳥取西・朝陽附属 富原
中学校 美原・共栄・景雲・鳥取西・阿寒附属 北富原・遠矢
高校 湖陵・江南・北陽・武修館

12月の予定

『釧路小中全国差拡大 学テ全道教育局別』

道教委は28日、小学6年生と中学3年生を対象に4月に実施した2016年度全国学力・学習状況調査について、教育局別など詳細に分析した北海道版結果報告書を発表した。釧路、根室教育局管内の平均正答率を見ると、釧路は全国との差が小、中学ともやや拡大する一方、根室は中学が改善した。釧路新聞社が試算した4科目平均をみると、釧路の小6が15年の3位から今回は6位、中3も6位から7位となったが、根室の中3は13位から11位に上昇した。(武田博)

学習時間は依然低い

釧路管内の平均正答率を見ると、小6(57校1750人)は3科目で全道平均を上回ったが、全国との差は拡大。

国語知識の1.1ポイント差から、算数活用では3.5ポイント差にまで開いた。

中3(38校1820人)は分野別で数学の資料活用が全国を上回ったが4科目全てで差が拡大、国語活用は4.4ポイント差まで開いた。

根室の小6(26校720人)は、算数活用の量と測定分野は全国を上回ったが、4科目全てで全国との差は拡大。中3(22校735人)は全国との差は大きいものの4科目とも全国との差を縮めた。

全道で見ると、小6が4科目合計では上川、檜山、留萌、渡島と続き、檜山は国語・算数の知識で全国平均を上回った。

	小学校								中学校							
	国語		算数		合計	平均	国語		数学		合計	平均				
	知識	活用	知識	活用			知識	活用	知識	活用						
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	255.5	63.9	75.6	66.5	62.2	44.1	248.4	62.1				
全道	71.0	56.0	75.3	44.5	246.8	61.7	75.1	65.0	61.8	43.3	245.2	61.3				
釧路	71.8	56.1	75.5	43.7	247.1	61.8	74.2	62.1	60.3	41.3	237.9	59.5				
根室	69.3	53.9	73.7	42.1	239.0	59.8	74.1	62.6	58.7	39.6	235.0	58.8				
空知	68.9	53.4	74.0	42.6	238.9	59.7	73.3	62.4	60.3	41.4	237.4	59.4				
石狩	71.3	56.9	75.6	45.5	249.3	62.3	75.8	66.4	63.0	45.1	250.3	62.6				
後志	70.2	55.8	74.9	44.9	245.8	61.5	73.4	62.2	58.5	40.0	234.1	58.5				
胆振	70.6	55.1	74.5	42.6	242.8	60.7	74.0	63.0	60.1	40.8	237.9	59.5				
日高	65.6	52.5	69.5	41.1	228.7	57.2	71.1	60.1	54.5	38.3	224.0	56.0				
渡島	72.0	56.5	77.5	44.9	250.9	62.7	75.7	65.5	61.9	43.0	246.1	61.5				
檜山	74.3	56.5	78.5	43.0	252.3	63.1	76.5	65.9	61.7	39.8	243.9	61.0				
上川	72.8	57.8	77.0	46.5	254.1	63.5	75.2	65.3	63.6	44.2	248.3	62.1				
留萌	72.3	58.2	75.8	44.8	251.1	62.8	76.0	66.8	61.2	43.3	247.3	61.8				
宗谷	70.4	51.1	71.7	39.9	233.1	58.3	73.0	61.7	55.3	37.5	227.5	56.9				
オホーツク	68.7	51.5	72.1	41.0	233.3	58.3	73.7	63.1	59.3	40.2	236.3	59.1				
十勝	70.3	55.2	74.6	43.4	243.5	60.9	75.7	65.0	62.5	43.3	246.5	61.6				

中3は石狩、上川、留萌、十勝と続き、石狩が3科目、上川、十勝、留萌が2科目で全国平均を上回った。

試験は4月に実施。全道分は9月下旬に発表している。報告書では併せて生徒や学校の生活習慣や学習環境の質問紙調査を分析したほか上位県の秋田に加え福井、石川県とも比較分析。

また、公表に同意した市町村の分析も掲載した。公表数は昨年より32市町村増え167市町村。

釧路、根室管内は標茶、弟子屈を除く11市町村が公開、学力の問題点や向上策などを示して

いる。

釧路の子の「1時間以上学習する子」の割合を見ると、釧路が小学生52%、中学生67%、根室が小学生57%、中学生49%で、全国(小学生63%、中学生68%)を依然下回っている。 釧路新聞 11.29

『新学習指導要領20年度から、国際化対応、学び新たに、英語、小3から、時間増』

小中高校の学習指導要領の改訂案が1日、固まった。グローバル化や人工知能(AI)の進化が加速する新しい時代に対応できる力を育もうと、小学校での英語教育の充実、多くの高校新科目などを盛り込んだ。対話を通じて「深い学び」を目指すアクティブ・ラーニング(能動的学習)も全教科に導入する。主要科目のポイントをまとめた。(新科目名はいずれも仮称)

小学校では現在「外国語活動」として5~6年で「聞く・話す」が中心の英語指導を週1コマ行っているが、改訂案では3~4年に前倒しする。5~6年では外国語活動に代えて「外国語(英語)」を正式な教科とし「読む・書く」も含めて教える。3~4年では英語に親しみ、5~6年では「アルファベットの文字や単語」「国語と英語の音声や語順の違い」といった内容を系統立てて学ぶ。

授業時間は3~4年は年35時間(週1コマ)、5~6年は現在の2倍の年70時間を充てる。他教科の時間は減らさないため、3~6年生は年35時間の純増となる。特に高学年は授業時数に余裕がなく、35時間をどう捻出するかが課題だ。

文部科学省は各学校の判断で15分程度の短時間学習と60分授業(通常は45分)を組み合わせたり土曜日を使ったりすることを想定。児童や教員の負担を抑えつつ時間を確保し、授業の質を高める必要がある。

そのため、同省は学校が教育課程を組織的に改善・充実させていく「カリキュラ

ム・マネジメント」を重視。7月に有識者会議を設置して議論を始めた。

中学・高校の授業が文法や単語の知識に重点を置いていた点も見直す。中学では英語による授業を基本とし、具体的な場面を設定して単語などを使う学習を増やす。高校には聞く・話す・読む・書くを総合的に扱う必修科目「英語コミュニケーションI」を新設。発信力を養う選択科目「論理・表現」も新たに設ける。

日本の生徒は中国や韓国などに比べて学ぶ単語数が少ないとの指摘がある。改訂案では高校卒業時(選択科目も全て履修した場合)で4千~5千語程度を新たな目標とし、現行の3千語程度から増やす。

専門家配置し現場の支援を 田中博之・早稲田大学教授(教育方法学)の話

アクティブ・ラーニング(能動的学習)とは課題解決的な学習を丁寧に実践することだ。定着すれば資料を読んで考え、仮説を検証するといった知識を活用する力の向上が期待できる。主体的、協働的に学ぶ力はグローバル化や多様な人と関わる機会が増える21世紀に欠かせず、改訂の方向性は理解できる。

一方で課題も多い。子供が能動的学習にスムーズに参加するには、家庭学習で基礎知識を得ることがこれまで以上に重要。授業中の学習成果を適切に評価に反映させ、子供や保護者に伝えることも欠かせない。

教員は子供の貧困や発達障害などへの対応に追われている。授業時間が大きく増えない中、知識量は減らさずに質の高い授業を展開するのは容易ではない。現場への支援が大切で、国は教員定数の改善のほか、理科の実験やICTなどの専門家の配置を充実させる必要がある。

正解なき問い 考える力養う 勝山元照・神戸大付属中等教育学校副校長の話

文部科学省の研究開発校として2013年度から、日本史と世界史を融合した「歴史基礎」を高校1年生に教えている。「世界各国に国民国家が成立した時期は」「日本はいつなら戦争を回避できたか」といった問いを單元ごとに立て、教師主導の学習、調査、グループ討論を組み合わせた授業を展開。正解が1つではない問いを考えさせている。

高校の新科目「歴史総合」のポイントは現代のテーマを長期的な視野で考えることだろう。そのためには1時間単位で区切る授業ではなく、数時間をかけて歴史を単元で捉える仕組みが効果的だ。

例えば東アジアの近代化というテーマなら、日中韓それぞれの国の事象の捉え方を意識させるといった工夫が考えられる。2科目を統合しても覚える用語を増やす必要はない。暗記中心の学習から生徒が調べて考え、発表する授業への転換が重要だ。

北海道の入試では、当日の得点以外に、中学校での成績評価である「内申点」が合否の判定に用いられます。内申点は、中1時代からの各学年の成績を元に計算する。また、算出した内申点を20点ごとに区切って「内申ランク」を決めますが、同じランクでも内申点が高いほど有利になります。

内申点の計算方法中1学年末・9教科合計×2、中2学年末・9教科合計×2、中3学年末・9教科合計×3

入試では、学力点と内申点の両方を総合的に判断して合否が決定されます。その際の評価の仕方は次の通りです。

(1) 定員の70%…学力点と内申点を同等に評価 (2) 定員の15%…学力点をより重視 (3) 定員の15%…内申点をより重視

平成29年度公立高校入試日程

内容	日時
出願の受付	1/20(金)~1/25(水)
出願状況発表	1/27(金)
出願変更受付	1/30(月)~2/3(金)
出願変更状況中間発表	2/1(水)
推薦入学面接	2/13(月)
出願変更状況発表	2/14(火)
推薦内定通知	2/20(月)まで
入学確約書提出	2/21(火)~2/23(木)
推薦不合格者再出願受付	2/21(火)~2/23(木)
再出願後の出願状況発表	2/28(火)
学力検査	3/7(火)
合格発表	3/17(金)
第2次募集人員の発表	3/22(水)
第2次募集の出願受付	3/23(木)~3/24(金)
第2次募集の合格発表	3/29(水)